

二条大麦新品種「カワホナミ」について

桐山 毅・吉田智彦・佐々木昭博・田谷省三・前田浩敬・池田和彰・小西猛朗
(九州農業試験場)

KIRIYAMA, T., YOSHIDA, T., SASAKI, A., TAYA, S.,
MAEDA, H., IKEDA, K. and KONISHI, T.
A New Two-Rowed Barley Cultivar "KAWA-HONAMI"

登録番号

二条大麦農林6号(系統名:西海皮18号)

来歴

昭和39年に九州農業試験場において、「関東二条3号」を母とし「アサヒ5号」を父として人工交配を行ない、40年度に $F_2 \sim F_4$ の世代促進後、系統育種法によって選抜・固定をはかってきた。46年度(F_{10})に「西海皮18号」の系統名をつけ、関係県に配布して地方適否を確かめつつあったが、その結果がよかったので、50年10月に「二条大麦農林6号」に登録され、「カワホナミ」と命名された。50年度の世代は F_{14} である。

形態的特性

二条並性の皮麦で、冬期間の草型は立性に近い中間型で、葉幅はやや広く、葉色は中位である。二条大麦の中では稈長・穂長ともに短い穂数は多い。稈はやや太く、株は閉じていて倒伏にはかなり強い。穂型は欠羽根型で、子実は大粒でやや長形である。玄麦の品質は良好で、穀皮歩合は低く、粗タンパク含有率が高い。精麦は白く品質は良好であるが、搗精時間がやや長い。

生態的特性

出穂期、成熟期ともに比較的早く、筑後地方で5月18～19日に、南九州では5月10日ごろに成熟する早生種である。赤かび病、うどんこ病にはかなり強いが、縞いしゅく病には弱い。耐湿性は中程度である。

播種程度はI～IIで春播型である。収量性は安定して従来二条大麦品種より多収性であり、特に全面全層播栽培、ドリル播栽培で増収し、機械化栽培に適する安定多収品種といえる。

栽培上の注意

春播型であるので春先に凍霜害の発生しやすい地帯ではあまり早播きしない。暖冬による早期茎立ちのおそれのある場合には踏圧などによって茎立ちを抑える。倒伏にはかなり強いが、あまり窒素が多いと倒伏する危険があるので注意する。縞いしゅく病の常発地帯では栽培

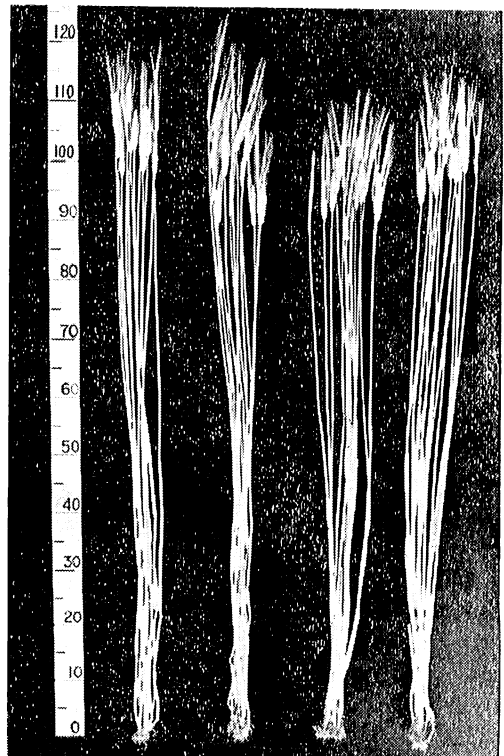
しない。また、子実が大粒なので、裸麦・小麦より播種量を多くして穂数の確保をはかる。

栽培適地および奨励品種採用県

本品種はわが国の西南暖地の平坦地および中山間地の地力中位～肥沃な水田裏作および畑作に適する。平坦地では水稻直播栽培の前作にも適する。現在の奨励品種採用県は大分・宮崎・鹿児島および兵庫の4県である。

命名の由来

「皮穂波」を表わし、穂揃いがよく穂波豊かな多収性の皮麦品種である。



左より 関東二条3号(♀), アサヒ5号(♂), カワホナミ(新品種), ダイセンゴールド(比較)